

逐次近似画像再構成が腹部単純 CT における 肝臓がんの診断に与える影響

・はじめに

肝臓がんは臓器別癌死亡の男性で第 3 位、女性で第 4 位であり、西日本は好発地域として知られています。X 線 CT 検査は肝臓がんの検出に用いられる検査です。

肝臓がんを対象に X 線 CT 検査を行う場合、病変を適切に検出するため、X 線を十分照射し、雑音の少ない画像を得ることが必要です。画像処理技術の向上により、X 線量を増加させず、画像の雑音を減らす“逐次近似画像再構成”が利用可能となっています。しかし、新しい画像処理が臨床検査に有用であるかは、十分検討されていないのが現状です。

本研究では、新しい画像処理である“逐次近似画像再構成”が腹部単純 CT における肝臓がんの診断への影響について検討し、有用性を確認することを目指します。

・対象

消化器・総合外科（第二外科）、または病態制御内科学（第三内科）を受診され、2012 年 9 月 1 日から 2014 年 2 月 28 日までに肝細胞がんを疑い、当院で腹部の CT 検査を受けられた 30 名の患者さんを対象とします。対象者となることを希望されない場合、お手数ですが記載の連絡先までご一報ください。

・研究内容

逐次近似画像再構成の画質を評価し、新しい画像処理が有効であるかを検証します。この研究を行うことで、患者さんに日常診療以外の余分なご負担が生じることはございません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学病院医療技術部放射線部門においては、個人を特定できる情報を削除し、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患

者さんを特定できる情報は一切含みません。

・ **研究期間**

研究を行う期間は、承認日より平成 28 年 3 月 31 日まで

・ **医学上の貢献**

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありません。しかし、新しい画像処理の有効性が確認できれば、積極的にこの技術を応用し、より精度の高い検査結果を提供することが可能となります。

・ **研究機関**

九州大学病院

医療技術部

医療技術部部長 大屋信義(責任者)

診療放射線技師 近藤雅敏

肝臓・膵臓・胆道内科

講師 古藤和浩

放射線科

助教 藤田展宏

医員 森田孝一郎

九州大学大学院医学研究院

臨床放射線科学分野

講師 西江昭弘

消化器・総合外科学分野

准教授 調 憲

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-5810

担当：近藤雅敏